



アフエットは  
幅広いステージで使えるので  
安心感があります。



長野県南佐久郡南牧村  
井出 亨さん

【プロフィール】  
南牧村で代々営むレタス栽培の家業を継ぐため、2005年に就農。レタス6ha(品種:フアンファーレを中心に8種ほど)のほか、はくさい、グリーンボール、サニーリーフなどを栽培。



取材時の8月下旬は収穫の最盛期。  
収穫を間近に控えたレタスが  
みずみずしく光る。

## 安定したレタス供給のため 品種の特性を見極めた 栽培体系を立案

夏でも冷涼な気候を活かした高原野菜で有名な長野県南牧村。中でもレタスは日本でも有数の生産量を誇ります。

2018年からJA長野八ヶ岳JGAPレタス部会の部会長も務める井出さんは、代々レタス農家を営む家業を継ぐため、2005年に就農されました。井出さんのレタス作りは、3月上旬から種まきが始まり、10月上旬まで収穫をします。

「栽培するレタスのほとんどはコンテナ契約なので、毎日安定して出荷できることが大事です」と井出さん。リスク回避のため、一年を通して多くの品種を作付していますが、「どの品種も長所と短所があります。大事なのは、その特性を見極めること」と話します。「今年は病気に強い品種を中心に栽培していますが、気温が高い夏では結球しにくくなります。そのため、病気には少し弱いけれど、葉厚で結球しやすい品



「必ず毎日畑を見回る」という井出さん。  
作物の変化を少しでも早く確認することが、  
病害虫被害の防止につながる。

種も栽培したりと、毎年試行錯誤しながら、よりよい栽培体系を研究しています」。

## 安定した生産をすることが、 簡単なようですごく難しい アフエットの使用時期の 広さが頼りになる

南牧村を含むJA長野八ヶ岳管内では菌核病、灰色かび病が毎年梅雨時期から発生が見られますが、近年はゲリラ豪雨や気温の上昇などの気候変動、また栽培期間の長期化により、「病害虫の発生予測は年々難しくなっています」(JA長野八ヶ岳 農業部 企画振興課 山田 輝明さん談)とのこと。以前にも増して病害虫の防除が重要になる

中、井出さんはアフエットフロアブルを予防の基幹剤として使っています。「アフエットを知ったのは、レタスの『菌核病』『灰色かび病』で、収穫前日まで使える剤が出たと農協から紹介されたのがきっかけでした。定植から収穫まで防除を8回くらいするけど、そのうち最初の2回はアフエットと銅剤を混ぜて散布してい

ます。収穫期を含めると、3回くらい使っているかな。薬害が出たことはないですね。春先のまだ寒いころ、被覆を取ったら、アフエットを必ず散布します。アフエット導入後は大きな被害もありませんね」と、その効果を評し、また収穫間際でも防除できる点もポイントとして、続けています。「天候などで、1~2日収穫が早まることもある。また、収穫期にゲリラ豪雨にあつと雨水が溜まる場所も出てきて病気が心配ですが、アフエットは収穫前日まで使えるので助かります。収穫したレタスを安心して出荷できるのは、生産者の心情としてもうれしいですね」と笑顔で話されます。

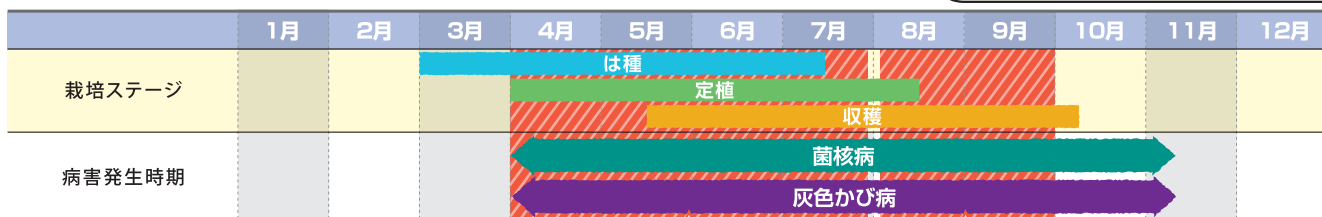
## JGAP認証を活かし、目標は オリンピックの「レタス代表」

今後力を入れたい取り組みについて、2019年に取得したJGAPの維持継続を挙げられました。「農協さんの協力もありJGAPの団体認証を取得しました。農業資材では整理整頓をきっちり行うことで、在庫管理などがやりやすくなりましたし、今まで以上に一つ一つの作業の意味を考えるようになりました。認証を活かし、2020年の東京五輪では選手村の食材に選ばれたいですね」と、これからの目を輝かせながら、お話をされました。

### 《産地情報》

標高1000~1500mの南牧村では、夏でも冷涼な気候を活かした高原野菜の栽培が盛ん。中でもレタスは日本でも有数の集荷量を誇り、「みずみずしさがおいしい」と市場でも高く評価されています。

## 井出さんのアフエット®フロアブルの使い方



**アフエット®フロアブル散布時期** 定植後、活着時に1回散布。その後は病気の発生状況に合わせて、追加散布を行う。